

第1回「河南町地域公共交通検討会議」 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成 25 年 7 月 26 日(金) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
- 場 所 / 河南町役場 4 階大会議室南
- 出席者 / 〔委員 11 名（委員随員 1 名含む）/ 欠席委員 2 名/ 事務局 6 名/ 記録 2 名
/ 傍聴者 2 名/ NPO 地域デザイン研究会 2 名〕
- 配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 河南町地域公共交通検討会議規則
 - ・ 河南町地域公共交通検討会議事務局規定（案）
 - ・ 河南町地域公共交通検討会議財務規定（案）
 - ・ 平成 25 年度地域公共交通検討会議予算（案）
 - ・ 平成 25 年度地域公共交通検討会議事業計画（案）
 - ・ これまでの概要・経緯
 - ・ 平成 25 年度地域公共交通検討会議 現状と課題
- 議 題
 - (1) 役員の選出について（会長、副会長、監事）
 - (2) 事務局規程（案）及び財務規程（案）について
 - (3) 平成 25 年度事業計画（案）について
 - (4) 平成 25 年度予算（案）について
 - (5) 現状と課題について
 - (6) その他
- 議事要旨
 - (1) 役員の選出について（会長、副会長、監事）
 - ・ 会 長：平峯委員/副会長：生澤委員/監 事：榎野委員、浅岡委員
 - (2) 事務局規程（案）及び財務規程（案）について 原案どおり承認
 - ・ 公印形状欄は空欄になっているが、本会議で事務局規程が承認された後、文字の名称で作成させていただく予定である。
 - (3) 平成 25 年度事業計画（案）について 原案どおり承認
 - ・ 2 年間で検討することになっているが、平成 25 年度 3 月の時点でほぼ案の取りまとめを行うという話なのか、それとも 26 年度中に何かほぼまとめようと考えているのか。
 - 目標としては、この 1 年で方向性を見出し、来年その実施に向かっていきたいという趣旨が入っているので、平成 25 年度は総合計画的な形をみなさまで作っていただく形となり、それ以降は、実施計画、年次計画等を議論して頂くことを考えている。
 - (4) 平成 25 年度予算（案）について 原案どおり承認
 - ・ 歳出に「消耗品費」「備品購入費」の記載があるが、具体的な経費はどのようなも

のか。

→事務局規程におきまして、「公印」を作るといった事務経費等である。

- ・補助金交付決定後になるが、予算の中の一部を業者へ委託したいと考えている（検討会議での意見を受けて、地図や資料の作成等）。

（５）現状と課題について

【高齢化について】

- ・大宝地区では高齢化率が34%、毎年2~3ポイントずつ上がっており、55歳以上でいうと52%と、高齢の町になってしまう。
- ・河南町では車が不可欠であるが、その不可欠な車にも乗れない世帯がどんどん増えていく。20年後30年後に乗れているという保証は誰にもなく、いざそのときになったときに、金剛バスややまなみバスがあるかどうかわからない。
- ・例えばボランティアのマイカーで高齢者を乗せて移動する場合に、将来的に現実的に交通事故という問題が出てくる。

【人の動きについて】

- ・大阪全体でバスの輸送量、旅行客数が3割も減っている。他の都市圏からいうと、突出して大阪が減っており、なかでも南部地域の減少が多い。
- パーソントリップ調査の結果、人の動きをみると、若い人が動かなくなって、お年寄りが動いている。なぜかと考えてみると、インターネットで物も買えたら自宅にそれが届く、その点で逆にお年寄りは動いている。

【通勤・通学の交通手段について】

- ・子どもが中学生になり、通学距離は直線では短いですが、アップダウンがかなりあり、また「不審者が出た」、「トラックで危なかった」、「自転車事故が増えてきた」という話を耳にするようになり、スクールバスのようなものがないかと思っていた。
- ・さくら坂南の方での住宅開発がだいぶ止まってきた。もし中学生のお子さんが居たときに、学校まで自転車でしか行けないようになってくると、住んでもらう人に住んでもらえないのではないかと。
- ・例えば、青崩地区にスクールバスがいたのであれば、途中にあるさくら坂の学生も乗せていってくれたらよいのではないかと思い、行政の方にその話もしたが、距離的に少し無理があると言われた。
- ・商工業活性化で、人に集まって頂こうとイベントを開催したときには「河南町ってどこ」「何駅」とまず言われます。鉄道駅は無いですし、「車で行った場合はどうしたらいいの」と車で来た時に駐車場が無い。
- ・多くの課題を抱えているのは、特に交通の空白地が多いところをどうしていくということであり、なんとか公共交通を走らせれないかと、いろいろと他の市町村の方もがき苦しんでいる。

【バスの運行本数が少ない】

- ・朝の時間はバスの運行便数があるが、大学に通っていたときには、バスの運行

本数が1時間に2本と少なく、学校に通うのにこんなに早く出ないといけないのかという経験をした。

- ・大阪市内で集まりがあっても、電車等を使って帰るときには、23時をまわるとすぐに帰らないといけなく、富田林駅までは帰れるがバスは無い。
- ・仕事が17時過ぎに終わり、皆で一杯呑んで帰ろうとなったとき、20時頃には帰らないとバスが無い。
- ・上ノ太子から喜志に行く金剛バスは1時間に1本も無いような状況になっており、利用者が減ればバス本数も減っていく、負のスパイラル状況となる。

【バスの運賃が高い】

- ・河南町から大学に通うためのバスの定期代が高いというのがあったため、同級生は大学の近くに住んでいた。

【バスの連携】

- ・『やまなみバス』と『金剛バス』のルートが重なっているところがある。
- ・喜志駅では、MK 観光バスが芸大のスクールバスを運行されているので、そういう連携も少し考えてみたらどうかという感じがした。
- ・金剛バスにも会議に入っていて、我々も利用促進を働き掛けるのですが、なかなか賛同いただけていない状況の中、新たな事業者さんとの連携の中でいうとMKバスを模索してもどうかという印象がある。

【バスの利用促進について】

- ・例えば高齢者の方々が非常に多いようなエリアでは、『フリー乗降制度（エリア内にバス停を特に設けずに路線上のどこでも乗降できる制度）』の事例もある。
- ・若い世帯がいるところでは、アベックや夫婦で公共交通を使って外出しようと思うことを活用するとすれば、鉄道等という『シニア割』のように、大人ひとり分の運賃で二人利用できる等の試行を実施されているところもある。

【金剛バスについて】

- ・金剛バスについてはこういった会議は一切お断りという会社の方針である。
- ・金剛バスは、経営方針としてどのような考えかあまりはっきりしないが、自分のやれることだけをやろうというようなことを原則しているのだと思う。
- ・運行ダイヤを変えてみたり、新しい路線を引いたりする、ノウハウをもった人材がもういないという風には聞いている。
- ・現状は、基幹バスとして走っているので、金剛バスを無視して、何とかするという話では無く、いろんなことを付加した上で、乗降客が増えていくのではないかと、実際やってみたら乗るねという話や社会実験等でPRできればと思う。
- ・金剛バスがこの路線にはどれぐらいの人が乗っているのだろうというデータが欲しいと思ってもなかなか出てこない。

【短期・中期・長期にかけて考えること】

- ・検討会議でいろんなことを検討する際に、『困っているからどうしようか』と『少し長期的に考えて全体でどうしていこうか』という2つことをみんなで考えな

いといけない。

- ・現段階で自家用車に乗られている方、一定の本数ある路線であれば路線バスに乗っている方、ある程度手段確保できているかもしれないが、高齢化となり、豊かな生活が今のままでできるのかと突き詰めていったときに、今の交通のままで本当にできるのかどうかというようなことを考えていくためには、中長期で踏まえて仕分けしていかないといけない。
 - ・実際に何かをしようとする、なかなか現在の困っているところをやるとなると、そのへんが疎かになる可能性もあるし、全体をカバーしようとするともた難しくなるし、この辺は大きな課題と思う。
 - ・地域差の問題。各地域においてそれぞれの課題があり、それぞれ状況が違うという点で、それぞれに沿ってそれぞれにあったオーダーメイド交通体系の在り方を考えていかななくてはならない。
- 幹線系とフィーダー系とデマンド型という3つ大別にしたが、これがいいかどうか、これをどういうふうに組み合わせればいいのかどうか、現在に対応するのか、中期的に対応するのか、もう少し先に対応するもの、こういうものを仕訳していかないといけないのかなと思う。
- ・旧村部の中でも山間地域もあれば、人口密度が高いにも関わらず、バスサービスのカバー圏域から外れている部分については、ある意味で公平に公正にさらに路線をひいていく。バスが通りにくい道路があるのではないだろうか。そうすると、単にバスを取りあげるだけではなくて、道路そのものをどうするのだというようなことにも考え方を広げていかざるをえないというようなことで、そうとう深堀をしていく必要がある。

【意識について】

- ・簡単に言えば、みんなバスに乗ればいいということであるが、「アクセスが悪い」等の交通環境のところが意見はだいたいベクトルとしては一致している。しかし、それを行動に移せるかどうかということそうではない。例えば、会議の会場まで車で来れる方がおられるので、意識を相当変えていただかないと。
- ・河南町全域的な環境、生活するには大変いいところと思う。地域環境のメリットがある分、交通面では若干大阪市内よりは劣るのは仕方がない。どこかある程度、この地域の最適水準みたいなものを決めて議論するべきである。
- ・高齢化率が他の地区よりも高い大宝地区としては、公共交通を充実させることでしか生きる場所が無くなるというようなそういう危機感も持っており、以前から真剣に取り組まないといけないと話をしている。
- ・大宝地区では、公共交通検討部会というのを作ろうということが決まり、この議題の進行に合わせて、自分たちもいろいろ計画していく。
- ・大宝地区やさくら坂地区以外の高齢化の進み方は2世帯住宅が多いから、例えばおじいちゃんおばあちゃんが動けなくても、若い者が動ける。いろんな方法がとられているので、どちらかと言えば、旧村部では公共交通に対する意識は薄い。
- ・町全体を考えたときに、さくら坂は既に何年か前から検討を進められているか

- らかなりの水準まで達しており、大宝地区は着手されたところで、追いついていこう。その他の旧村部は会議があることでさえ知らない者がいる。そのへんレベルを上げてあげないと、この会議だけが先走っては何の意味も無い。だからスピードは大事、しかし皆さんに公平・公正な形で情報提供し、意識を持たせるこういう行動も必要である。時間も必要、しかし回数も必要、しかも意識をあまり持っておられない方へのアピールが一番必要ではないかなと思う。
- ・かなり地域に温度差があるので、まず全体のベースをあげることがまず必要ではないか。

(6) その他

【住民への周知徹底について】

- ・各回毎にニュースを作って配布してはどうか。
- ・広報紙の2ページぐらい枠を取って周知する。
- ・HP に載せる。

【資料全般について】

- ・当日資料を配布された場合、会議後に資料を読み返してからおかしい箇所があると思う可能性もあるので、資料については事前配布をしていただけないか。
→次回の会議では事前配布を予定させていただきたいと思う。
- ・「モビリティ」「フィーダー」「デマンド」という言葉からイメージが持てないので、出来れば、というように日本語で書いてほしい。
- ・現状と課題については非常に資料としてはまとまっており、ほぼ8割ぐらいでするので、皆さんであと2～3つ課題を挙げれば十分である。
- ・もう少し前に資料をもらえていたら、あと足りないところも考えられたが。
→資料をもう少し読み込んでからでない意見もでないということあるので、事務局の方にメールやFAX等で、各委員から意見等を集めて頂きたい。

【検討会議の回数について】

- ・検討会議の回数が今年度4回というのは少なすぎるのではないかな。今日会議が終わり、次回各自で宿題を持ち帰りましたところ、3カ月後覚えている自信がない。
- ・2か月・1か月に1回と、もっと前倒しになったら、もっと早く計画が進んでいいのではないかな、もっとやりたいことが出てきたら、それに時間を費やすことができるのではないかな。
- ・地域として全体のベースをあげるのに、逆に言えば、先行していますさくら坂や鈴美台がされたことを他の地域に出張して、苦労したこと・やってよかったこと等のリアルに語っていただくような活動をしていただければ少しずつベースがあがってくるのかなと思う。
- ・計画だけが早くできて、地元の熱がなかなかあがってこないのでは困るので、この流れの中で、各地域の考えられていることが寄り添って1本化していかないという意味では回数は検討の余地があるかもしれない。しかし今回の内容で

あればこれぐらいでいいのかなと思う。

【次回予定、及び意見等の提出先等】

- ・ 次回の検討会議日程：10月23日（水）午後1時30分
- ・ 御意見の窓口：総務課
手 法：メール、書面郵送、窓口での手渡し